

率は県計の場合とほぼ同じで、漁家の約4分の1が専業漁家となっている。

表4 専業・兼業別個人経営体数

(昭和55年1月1日現在)

区 分	仲里村	具志川村	計	割合(%)	県 計	割合(%)
計	113	69	182	100%	4,481	100%
専 業	21	23	44	24.2	1,150	25.7
兼 業						
漁業が主	42	30	72	39.6	1,521	33.9
漁業が従	50	16	66	36.3	1,810	40.4

出典：第9次沖縄農林水産統計年報

④ 漁業生産の動向

昭和48年以降の久米島における漁業経営体数、漁業種類別の生産量及びトビイカを生産量の動向を示したのが表5である。表5によると、漁業経営体数の変動は昭和49年以降あまり大きくないが、生産量は極めて大きな変動を示し、特に51年の生産量は前年の半分以上に減少している。

このような漁業生産量の大きな変動は、当然、漁業者の生活に深刻な影響を及ぼすこととなり、その生活の不安定さが思われる。

久米島における主な漁業種類は、ひき縄・一本釣り・いか釣り・刺し網である。このうち、いか釣り漁業はトビイカを獲るほとんど唯一の漁業であるが、いか釣り漁業で漁獲されるのはトビイカのほかにマグロ、メカジキ、サメ、その他があり、いか釣り漁業による漁獲量はトビイカ生産量よりも大きくなるのが普通である。この点から表5をみると数字の解釈に困難を感じる点もない訳ではない。

表5 久米島における漁業の動向

単位：トン

年	48	49	50	51	52	53	54
経営体数	132	170	181	175	160	164	182
漁業生産量計	447	1,143	863	420	592	708	704
刺し網	54	84	84	82	91	54	66
いか釣り	62	197	145	18	15	106	71
ひき縄	81	227	248	117	122	221	208
一本釣り	48	211	139	119	152	186	200
定量網	—	—	—	—	—	—	14
探貝		24	7	13	25	5	6
探草	145	173	105	13	80	27	20
迫込網	4	3	19	1	12	7	38
その他	49	225	116	57	95	102	81
トビイカ生産量	58	141	101	18	80	106	71

出典：第3次～第9次沖縄農林水産統計年報
(但し、養殖は含まない)